

# 東日本大震災津波からの 復興まちづくりフォーラム

## ～ふるさと岩手・三陸の創造を考える～

県土整備企画室

東日本大震災津波から1年が経過し、**今年度は本格復興元年**として、海岸保全施設の復旧・整備や命の道路である復興道路の整備、防災集団移転促進事業や土地区画整理事業等による面整備が、過去に前例のない規模とスピードで本格的に進められようとしています。

一方で、それぞれの市町村や地域には、先人から継承された文化とそれを育んだ風土、人と人のつながりにより形成された**“ふるさとへの想い”**があり、復旧・復興のインフラ整備にあたっては、連綿として受け継がれたこれらの想いにも応える必要があります。

本フォーラムは、これら**“ふるさとへの想い”**などに応えながら、**50年、100年先を見据えた復興まちづくりに取り組む**ため、景観やまちづくりの専門家、被災地の復興を担うキーパーソン、教育・行政関係者を交えて県民と共に考え、**今後の復興まちづくりに役立てるために開催**します。

【主催】岩手県

【後援】財団法人岩手県土木技術振興協会、公益社団法人岩手県下水道公社

一般社団法人岩手県建設業協会、一般社団法人日本造園建設業協会岩手県支部

**会場** 平成24年6月9日（土）10時00分～15時00分

**日時** ホテルメトロポリタン盛岡本館4階「岩手」の間

- 第1部 講演**
- I 東日本大震災津波からの社会資本の復旧・復興について  
岩手県副知事 上野 善晴
  - II **後世に引き継ぐふるさと三陸のまちづくり**  
**涌井 雅之 氏**



涌井 雅之 氏

【現職】

東京都市大学環境情報学部教授、中部大学中部高等学術研究所客員教授、東京農業大学客員教授

【略歴】

1945年、神奈川県鎌倉市生まれ。都市と自然の関わりにおけるランドスケープデザイン作品を数多く手がけ、「景観十年、風景百年、風土千年」を提唱。日本造園学会賞、国土交通大臣賞等を受賞。TBS「サンデーモーニング」等でコメンテーターとしても活躍中。

## 第2部 討論会

## ～三陸の50年、100年先を見据えた復興まちづくり～

被災地の復興に取り組むゲストをお迎えし、今後のまちづくりについて議論していただきます。

### 【ゲストのご紹介（50音順） 敬称略】



岩崎 昭子

【現 職】有限会社宝来館 代表取締役

【活動内容】釜石市根浜海岸前の旅館「宝来館」を運営する傍ら、「A&F グリーン・ツーリズム実行委員会」幹事を務め、地元のグリーンツーリズム体験の拠点として、海岸の景観保全、農家民泊発掘による宿泊客拡大などに尽力。東日本大震災津波発生当時、宿泊客や地域住民に呼び掛け、先陣を切って避難誘導を行った。現在は、積極的にボランティアの受け入れを行うとともに、離れ離れになった地域の方々が集う場作りを行うなど、宿の再建のみならず地域の復興に向けて取り組んでいる。



及川 修一

【現 職】陸前高田市議会議員、全国太鼓フェスティバル実行委員会会長、小友町野球スポーツ少年団監督

【活動内容】東日本大震災津波発生以降、被災地に元氣と希望を取り戻すため、「太鼓フェスティバル」を通じた“まちづくり”活動を展開する傍ら、陸前高田市の惨状と復興に向けた取組などの講演にも多数出演。また、気仙地区広域連合議会議員として、震災からの早期復興に向けて、被災地の広域連携体制の強化に尽力。このほか、震災でグラウンドを無くした子供たちの野球練習や試合のため県内各地を転戦するなど、多岐にわたり活躍中。



佐々木 道雄

【現 職】奥州市立梁川小学校校長（前 山田町立船越小学校校長）

【活動内容】東日本大震災津波発生当時、山田町立船越小学校校長として勤務。同校は、津波浸水想定区域外に所在し避難所に指定されていたが、校務員の助言を受け高台への「避難」を即断。その後、同校は襲来した津波に呑み込まれたが、教職員一丸となった臨機の行動により、在校児童 136 人の命を救う。現在は、奥州市立梁川小学校校長として、東日本大震災津波の教訓を踏まえた防災教育に取り組んでいる。



津田 保之

【現 職】株式会社津田商店 代表取締役、釜石流通団地水産加工業協同組合 代表理事組合長

【活動内容】東日本大震災津波により、自らが経営する会社（株式会社津田商店）の本社、工場の一切を流失。1年がかりで再建し、本年4月より新工場の操業を再開。また、自らが代表を務める釜石流通団地水産加工業協同組合も被災し、現在再建中。組合員の大半も被災したことから、その再建に向け先頭になって取り組んでいる。



戸羽 太

【現 職】陸前高田市長

【活動内容】1995年4月から陸前高田市議会議員を務め、2007年3月に助役に就任。その後副市長を務める。2011年2月の市長選に初出馬、初当選を果たし、東北地方で一番若い市長として就任。市長就任直後、東日本大震災津波により中心市街地の壊滅的な被害と多くの犠牲者が出た中で、一日も早い被災者の生活再建を図るとともに、地域産業の再生と発展を目指し、新しい陸前高田市のまちづくりに全力を挙げて取り組んでいる。



南 正昭

【現 職】岩手大学教授 博士(工学)、岩手県東日本大震災津波復興委員会津波防災技術専門委員会委員

【活動内容】岩手三陸の復興支援と復興につながる調査研究を行っている。震災前から数年間に亘り研究フィールドとしてきた宮古市田老地区では、東日本大震災からの復興の支援活動ならびに復興につながる調査・研究活動の遂行を目的に、平成24年3月11日に「田老復興まちづくり研究室、通称：たろちゃん研究室」をグリーンピア三陸宮古のクラブハウス内に開設。岩手三陸の早期復興と三陸地域の充実に資することを目標に取り組んでいる。



向井田 岳

【現 職】刈屋建設株式会社 代表取締役、一般社団法人岩手県建設業協会副会長

【活動内容】東日本大震災津波発生直後から、国道45号などの啓開作業に尽力。また、宮古地区災害復旧対策連絡協議会の活動として、自衛隊の捜索活動への協力や宮古市のがれき撤去作業を実施。復旧・復興事業に従事する傍ら、建設業協会青年部連絡協議会時代から培った多方面に亘る活動・経験から、シンポジウム等にも多数参加。平成23年12月には、農林水産大臣から震災対応に対する感謝状を授与。現在、一般社団法人岩手県建設業協会副会長として活躍中。